

10月現在の連合会が設立された。その協力の主たるものは鮭鱒親魚の密漁防止、放流稚魚の保護、鮭鱒孵化施設の拡充、河川水質の汚濁防止、鮭鱒資源維持増進に関する啓蒙宣伝などで顕著な協力事項の実現を見ており北海道の鮭鱒孵化事業のため多大の貢献をしている。

(札幌市外中の島)

北海道鮭鱒増殖漁業協同組合

戦後択捉、国後両島の喪失により道内の鮭鱒増殖施設拡充が必要となつたが、一挙に国費投入は不可能の状態にあつた際、道内鮭鱒定置漁業者の総意をもつて本組合を結成し、昭和26、27兩年度に農林漁業特別融資金を借入れ、これにより道内主要個所である幕別事業場他25カ所に鮭鱒増殖の施設を行なつた。

この施設は現在においても国の増殖事業に提供しており、北海道の鮭鱒孵化事業のため多大の貢献となつた。

(札幌市北3条西7丁目水産会館内)

北水協会

明治16年、伊藤一隆ほか5名の発起人によつて設立され、同18年以降「北水協会報告」を月刊し、月次例会を開き地方に講師を派遣して技術の啓蒙、交流に尽すなどその功績は大きい。ことに伊藤一隆、藤村信吉を中心として、孵化事業の発達に大きな貢献を示している。

その会員は世界の34カ国に及び孵化技術の普及はいちじるしくすすめられた。(別稿「北水協会75周年」参照)

(札幌市北3条西7丁目水産会館内)

受賞して

菊地覚助

去る10月16日鮭鱒孵化事業創基80周年の記念式典を挙行され、その席で多年本事業に尽瘁された人々に対し、感謝状ならびに記念品が贈呈され、数ならぬ自分もその列に加えられたことは感謝感激である。自分が明治42年早春学生服に身を固めハンチングを冠つて千歳孵化場に赴任し、森脇、藤井、内海、波多野伊藤の諸先輩指導の下にまず第一に孵化盆の錆落とし修繕から、孵化盆および孵化槽の塗り方をやり、まるで南洋の土人よろしくのスタイルで毎日コツコツやつた時代を想起すれば何となく涙が落ちてくるがしかもなつかしい思い出である。

今や齢80余歳となり、近年血圧が高くなり、昨年ちよつと倒れ、今静養中であるが、身体が少し楽になつたらせめて事業のご参考になる事でもポツポツ書いて、このご厚意にお酬いしたいと考えております。